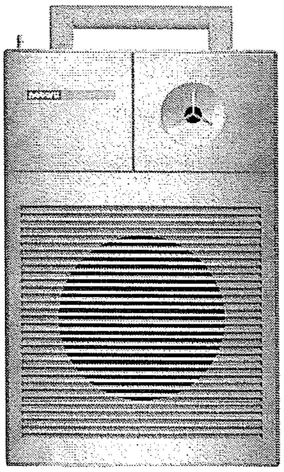
noboru

取扱説明書（保証書付）

シングル 300MHz帯 PLLワイヤレスチューナ付

ワイヤレスアンプ

WB-101



このたびは、ワイヤレスアンプをお買い上げいただき、
誠にありがとうございました。

目次

安全上のご注意……1～3
各部の名称と説明……4～5
使用電源について……6～7
ワイヤレスチューナ部の説明……8～10
別売ユニットの取付方法……11
操作のしかた……12～13
接続例……14
点検方法……15
付属の防塵カバーについて……16
定格……17
外観寸法図……18
保証書……20

安全上のご注意（必ずお守りください）

●ご使用前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。
●お読みになったあとは、必ず保存してください。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

△記号は注意（危険・警告）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる
煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。

プラグをコンセントから抜け

分解／改造はしない
火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。

異物を入れない／濡らさない
水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。(雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。)

通風孔をふさがない
通風孔をふさぐ、ものを掛けたり通風を悪くすると内部に熱がこもり火災の原因となります。

電源コードを傷つけない
電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線)販売店などに交換をご依頼ください。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しない
火災・感電の原因となります。

乾電池は、充電しない
電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。

屋外で使用中に雷が鳴り出したら、使用しない
落雷の原因となります。使用を中止し、機器から離れてください。

表示部が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しない
事故や火災、感電の原因となります。そのような場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。

ワイヤレスマイクを危険作業の誘導などに使用しない
場所や距離や周囲の雑音条件によっては電波が到達しなかったり、瞬間的に電波が遮られたりして放送が途切れたりして、作業の指示などが完全には伝達できない場合があり、事故の原因となることがあります。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

水・湿気・湯気・ほこり・油成分（油煙/油粒）などの多い場所で使用しない
火災・感電・故障・破損の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

電源コード、スピーカコードを熱器具に近づけない
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

異常に温度が高くなる場所に放置しない
窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く
火災の原因となることがあります。

お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く
感電の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜け

電池は極性を正しく挿入する
電池を機器内に挿入する場合、極性表示に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

指定以外の電池は使用しない

また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池は、金属性の物と一緒に携帯、保管しない

電池は、金属性のボールペン、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れない

電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

長期間使用しない、交流100Vで使用のときは電池を取り出しておく

電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

樹脂加工部に対してベンジンやシンナーなどの溶剤を使用して清掃しない。また、タバコなどの火を近づけない

部品変形により故障して、火災などの原因となることがあります。

長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカが発熱し、火災の原因となることがあります。

濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。

移動するときは、コード類を傷つけない

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜け

この機器に乗ったり腰掛けたりしない

特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

オーディオ機器、外部スピーカ等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。

1年に一度くらいは内部の掃除を工事店などにご相談ください。内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については工事店などにご相談ください。

設置・使用上のご注意

- 本機の放熱孔をふさがないよう上面、及び後面に10cm以上の空間を確保してください。
- 本機を水滴または飛沫のかかる場所で使用しないでください。
- 使用中に強い衝撃や振動を加えないでください。音切れや故障の原因となることがあります。
- 本機を雑音発生の原因になる機器※の近くには設置しないでください。

※高周波機器(乾燥機,医療機器など)、電気溶接機、ブラッシングモータ、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器(コンピュータ、電子楽器など)、空気清浄器など。

遮断装置について

- 本機は電源プラグが遮断装置になります。
- 本機は遮断装置へ容易に手が届くように、電源コンセントの近くで使用してください。

各部の名称と説明（後面）

充電表示灯
別売ニカド蓄電池(WBT-2000)の充電中には赤色に点灯します。P7の別売ニカド蓄電池でご使用の場合の説明をご覧ください。

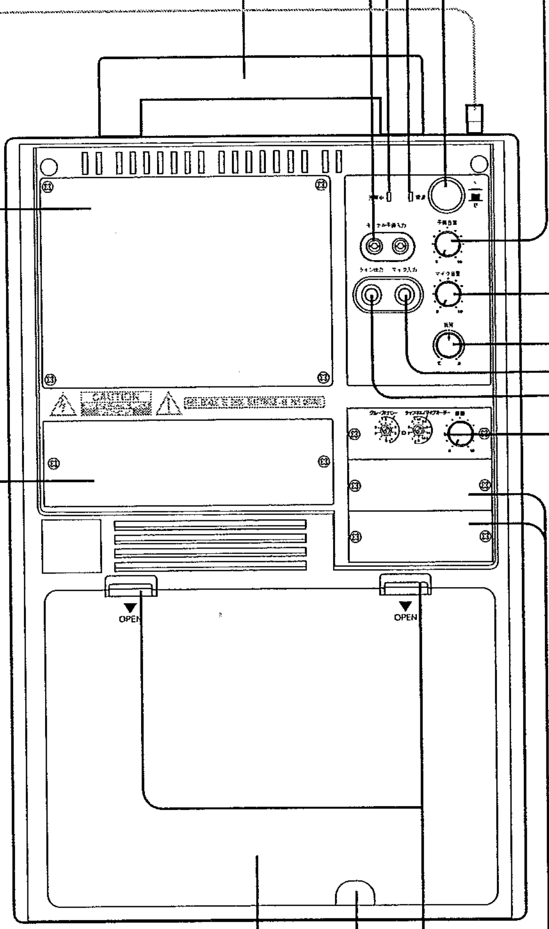
モノラル予備入力ピンジャック
(−22dBV 10kΩ不平衡)
CDプレーヤなどを接続してください。ステレオ機器の場合は両方のジャックに接続、モノラル機器の場合はいずれかのジャックに接続してください。

ハンドル
本機を移動させるときは、ハンドルを起こして持ち運んでください。移動時以外は、ハンドルをねかせておいてください。

ロッドアンテナ
ワイヤレスマイク受信用アンテナです。使用時は最長に伸ばしてください。

ブランクパネル
(カセットデッキユニット取付部)
別売のカセットデッキユニットMUC-100を組み込みます。カセットデッキユニットの取扱説明書をご覧ください。

ブランクパネル
(CDプレーヤユニット取付部)
別売のCDプレーヤユニットCDU-100を組み込みます。CDプレーヤユニットの取扱説明書をご覧ください。



電源表示灯
本機の電源が入ると緑色に点灯します。また電池でご使用のときは、電池が消耗すると点滅しますので、新しい電池と交換してください。

電源スイッチ
ワイヤレスアンプの電源を「入」「切」するときに押します。

予備音量調節つまみ
モノラル予備入力ピンジャックに接続された機器の音量を調節してください。

マイク音量調節つまみ
本機のマイク入力ジャックに接続されたマイクロホンの音量を調節してください。

音質調節つまみ
右まわりで高音が強調され，左まわりで減衰されます。中心のクリック位置がフラットです。
すべての入力に共通して音質調節がおこなえます。

マイク入力ジャック
(−56dBV 600Ω不平衡)
有線マイクのプラグを接続してください。

ライン出力ジャック
(0dBV 1kΩ 不平衡)
カセットデッキ（録音用）や増設アンプなどを接続してください。

ワイヤレスチューナ部
出荷時は、グループ／チャンネル番号「C11」に設定されています。グループ／チャンネル番号の変更をされる場合はP8のチューナ部の周波数設定のしかたの項をご覧ください。

収納部ふた
P5の収納部の説明をご覧ください。

コード通し穴
AC電源コード、外部スピーカ接続コード接続時はこの通し穴から引き出してください。

ふたストッパ
矢印（▽）の方向に押さえますと、収納ふたが開きます。

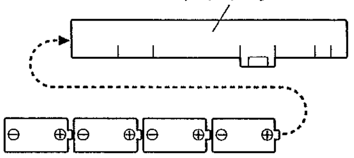
ブランクパネル
(ワイヤレスチューナユニット取付部)
別売のワイヤレスチューナユニットSU-3000A、または入力ユニットEU-300を増設される場合は、ブランクパネルをはずしてください。
(P11の別売ユニットの取付方法をご覧ください。)

各部の名称と説明（収納部）

乾電池収納部
本機を乾電池で使用する場合は、単一乾電池(R20P)8本を入れてください。
（P6の乾電池の入れかたをご覧ください。）

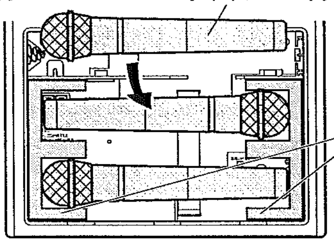
乾電池収納パイプ（2本）
本機を乾電池で使用する場合は、それぞれのパイプに単一乾電池(R20P)4本を極性表示に従って入れてください。
（P6の乾電池の入れかたをご覧ください。）

■乾電池収納パイプ

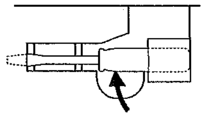


マイク固定パッド（付属品）
マイクロホンなどを収納するときに下図のように装着してください。
下図のようにワイヤレスマイク(WM-3000A)を3本（上段2本、下段1本）まで収納することができます。
収納したマイクロホンは収納マイク固定ベルトでしっかり固定し、輸送時の衝撃から保護してください。ただし別売ニカド蓄電池(WBT-2000)取付時はこのパッドを装着できません。

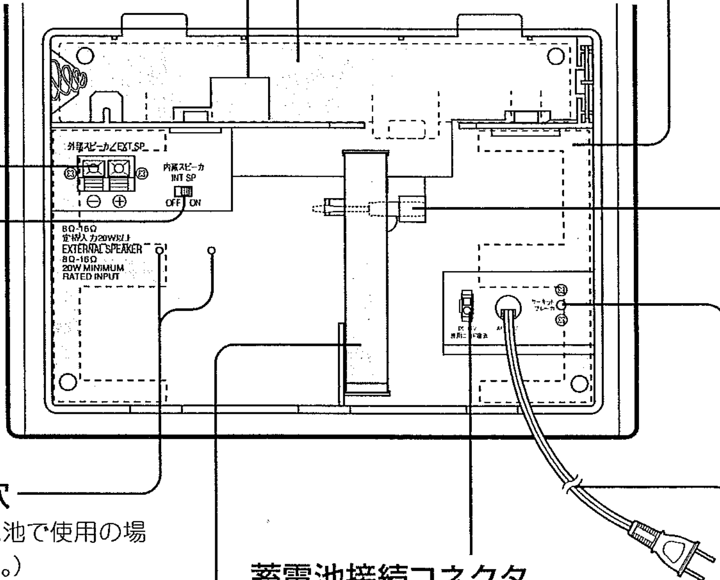
■マイク収納例



ワイヤレスチューナ設定用ドライバ



（P8の周波数の設定のしかたをご覧ください。）



サーキットブレーカ
異常発生時は飛び出した状態(■)になります。押し込む(―)と復帰しますが、再び異常状態になるときは販売店に修理をご依頼ください。

蓄電池取付穴
（P7のニカド蓄電池で使用の場合をご覧ください。）

収納マイク固定ベルト
マイクロホン収納時に固定してください。

蓄電池接続コネクタ
別売ニカド蓄電池WBT-2000を接続してください。（P7のニカド蓄電池で使用の場合をご覧ください。）

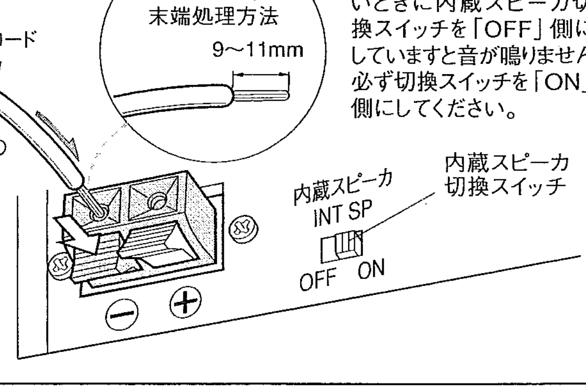
AC電源コード
AC100Vコンセントに接続してください。収納部ふたの穴からコードを引き出してください。

外部スピーカ接続端子
外部スピーカを接続してください。スピーカ接続コードを下図の要領で接続してください。

内蔵スピーカ切換スイッチ
内蔵スピーカを鳴らすか鳴らさないかを内蔵スピーカ切換スイッチで選択しください。
ON:内部スピーカを鳴らすとき
OFF:内部スピーカを鳴らさないとき

※外部スピーカは定格入力が20W以上で、インピーダンスが8～16Ωのものを使用してください。

■適合電線:
0.75mm^2～2.0mm^2
のより線



注）
外部スピーカを接続しないときに内蔵スピーカ切換スイッチを「OFF」側にしていますと音が鳴りません。必ず切換スイッチを「ON」側にしてください。

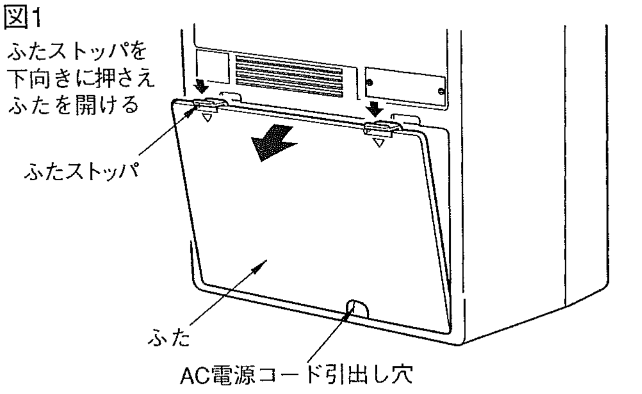
使用電源について

●本機はAC100V、乾電池(R20P)、ニカド蓄電池(WBT-2000)の3種類の電源が使用できます。下記の使用される電源の説明に従ってご使用ください。

ふたを開ける

○ふたストッパを下向きに押さえ、ふたを手前に開けてください。内部にAC電源コード、乾電池ホルダ、ニカド蓄電池収納部があります。(図1参照)

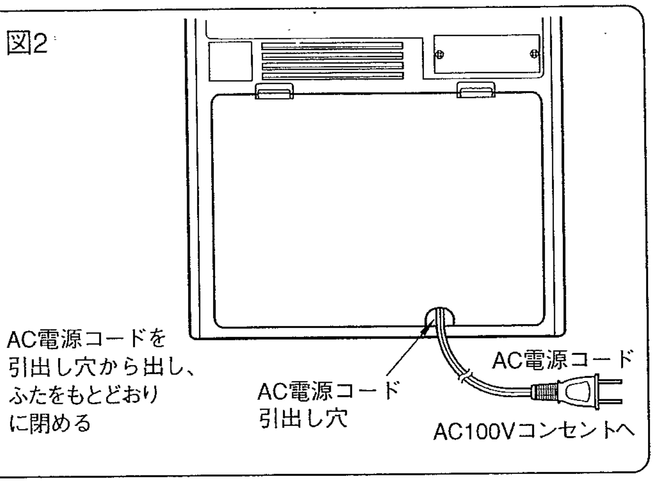
図1



AC電源でご使用の場合

1.AC電源コードを取り出しACコンセントに差し込んでください。
2.AC電源コードを下部のAC電源コード引出し穴から出して、もとどおりにふたを閉めてください。(図2参照)

図2



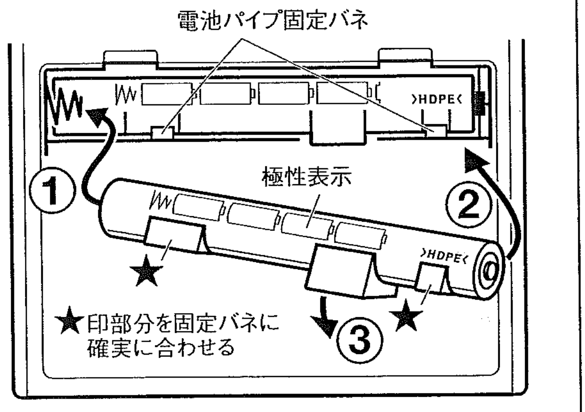
乾電池でご使用の場合

(単一乾電池R20Pを8個ご準備ください)

1.電池収納パイプの極性表示に従って、それぞれのパイプに単一乾電池(R20P)4本を入れてください。(図3参照)
2.電池収納パイプを図3の要領で乾電池収納部に挿入してください。
3.もとどおりにふたを閉めてください。

●乾電池を内蔵している場合でも、ACコンセントに電源プラグを差込みますとAC100Vで動作します。またAC100Vコンセントに差込まない場合は、自動的に内蔵乾電池(DC電源)で動作します。
●電源スイッチを切ったときは、電源表示灯が点滅しながら消えますが、異常ではありません。
●アルカリ乾電池を使用しますと比較的、長持ちします。

図3



ご注意..
●本機に乾電池が入っているときは乾電池の飛び出しなどを防ぐために、必ずふたを閉めてください。
●乾電池を交換するときは、必ず全部新品に交換してください。乾電池は必ず同じ種類のものをご使用ください。また乾電池の極性は+−を間違えないようご注意ください。
●長時間使用しない場合は乾電池を取り出しておいてください。乾電池をそのまま入れておきますと、乾電池の液もれで本機が使用不能になる恐れがあります。

別売ニカド蓄電池(WBT-2000)でご使用の場合

(別売ニカド蓄電池WBT-2000をご準備ください)

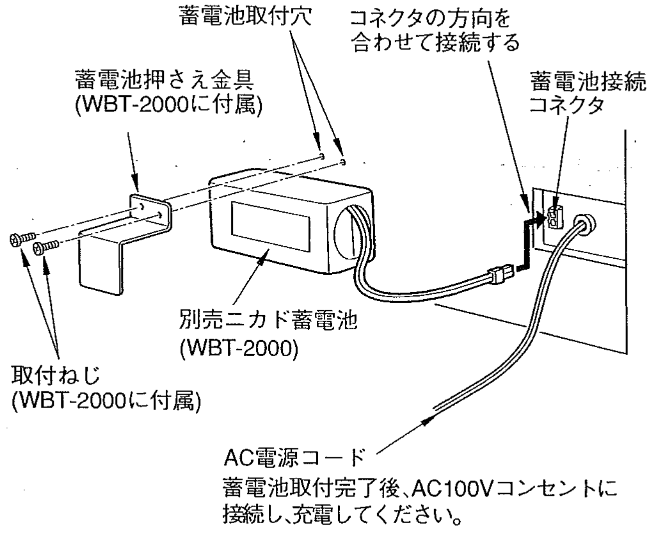
蓄電池の取付のしかた

1.ニカド蓄電池を収納部左下部に蓄電池押さえ金具と取付ねじを使用し固定してください。(図4参照)
2.ニカド蓄電池のコネクタを本機の蓄電池接続コネクタに接続してください。コネクタは方向を合わせ、抜け止めのつめが完全にロックするまで差し込んでください。

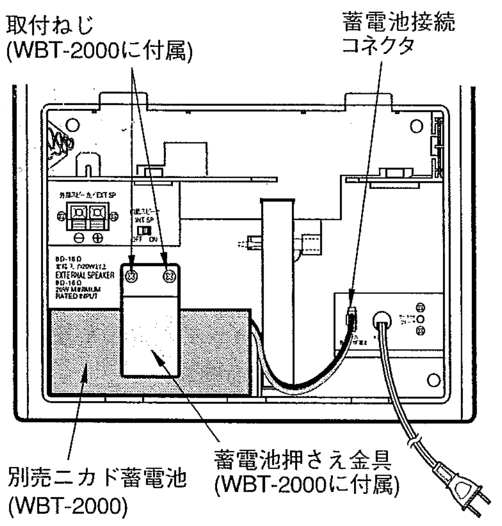
ご注意... ニカド蓄電池取付時は収納部にマイク固定パッドを装着できません。

◎お求めいただいたニカド蓄電池(WBT-2000)は初期状態では充電されていません。下記の説明に従って充電をしてください。

図4



蓄電池取付完了



ニカド蓄電池の充電のしかた

1.本機のAC電源プラグをACコンセントに差し込んでください。充電が開始され充電表示灯が赤色に点灯します。

ご注意... 充電中は電源スイッチを入れないでください。電源スイッチを入れますと、本機は動作状態になり充電ができません。

2.約10時間(常温時)で充電が完了します。AC電源プラグをACコンセントから抜き取ってください。
3.AC電源コードを格納し、もとどおりにふたを閉めてください。

電池寿命の目安

電池種類	マンガン乾電池	アルカリ乾電池	ニカド蓄電池
電池寿命	約4.5時間	約16時間	約4時間

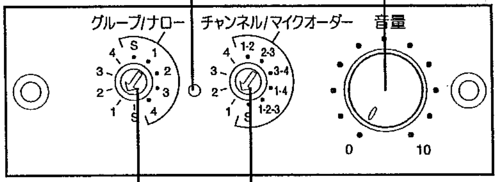
● 上記の電池寿命は当社の試験条件(拡声6Wトーンバースト波、ワイヤレスチューナ 1ch使用時)で連続使用した場合の値です。ご使用の条件によっては著しく短くなることがあります。
● 電源表示ランプが点灯していても出力により音が途切れることがあります。このとき乾電池使用の場合は早めの交換を、ニカド蓄電池使用の場合は直ちに充電されることをお勧めします。

ワイヤレスチューナ部の説明

(各部の名称と説明)

アンテナ受信表示灯
本機の電源が入りますと赤色に点灯します。電波受信時は緑色に点灯し、受信していないときは赤色に点灯します。

音量調節つまみ



グループ(GROUP)設定スイッチ
使用するワイヤレスマイクのグループ番号と同じ数字に設定してください。
(下記の周波数設定のしかたを参照)

チャンネル(CH)設定スイッチ
使用するワイヤレスマイクのチャンネル番号と同じ数字に設定してください。
(下記の周波数設定のしかたを参照)

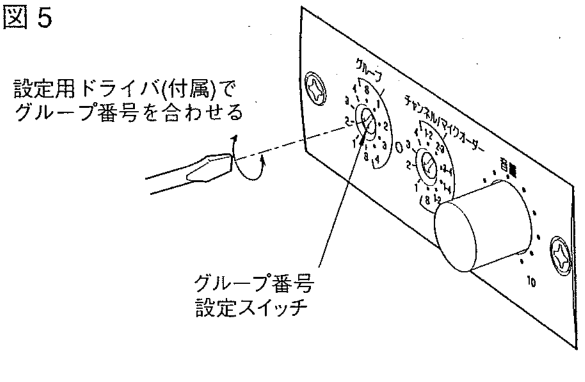
周波数設定のしかた

●本機は出荷時に、ワイヤレスチューナ部のグループ／チャンネル番号を「C11」に設定しています。
周波数設定を切り換える場合は、付属の設定用ドライバ※を使用し、次の要領でおこなってください。
(図5/6参照)

1.グループ番号を設定する

グループ(GROUP)設定スイッチの矢印を設定したいグループ番号に合わせます。(図 5参照)

図 5

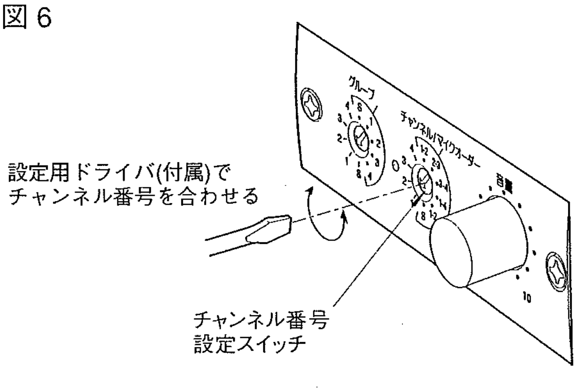


2.チャンネル番号を設定する

次にチャンネル(CH)設定スイッチの矢印を設定したいチャンネル番号に合わせます。(図 6 参照)

※設定用ドライバは本機後面収納部内の中央付近に固定されています。(P5の収納部の説明をご覧ください。)

図 6



ご注意
アンテナ受信表示灯が早く点滅する場合は、周波数設定が正しくおこなわれていないこと(9ページの受信周波数表にないグループ、チャンネルに設定している)を表しています。再度、周波数設定をしてください。

ご注意..

- ●受信機とマイクは、同じ周波数(グループ及びチャンネル)に設定してください。
- ●同時に使用するマイクは、全て同じグループにして、全て違うチャンネルに設定してください。
(P9の受信周波数表を参照)
- ●1ヶ所で同時に使用できるチャンネル数はP9の「グループ／チャンネル番号について」の項を参照してください。
- ●同じ周波数の妨害電波、高周波を使う機器が近くにないことを確認してください。やむをえず雑音源の近くでご使用になる場合は、ワイヤレスマイクと本機の距離は約2m～10mの距離でご使用ください。なお、2m以内に近づくと、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信などが発生することがあります。
- ●ワイヤレスマイクを2本以上ご使用の場合は、マイクロホンどうしは50cm以上離してください。他の受信機へ混信することがあります。

300MHz帯ワイヤレスシステムについて

■グループ／チャンネル番号について

●同一場所で、複数のマイクを同時に使用する場合は1つのグループに統一します。
(グループ1～4の中から1つのグループを選びます。)

- グループ1～3の中から1つのグループを選んでシステムを組めば、最大4波まで使用できます。
- グループ4は1波使用できます。

●周波数一覧表にないグループ／チャンネル番号に設定すると、受信表示灯が点滅し受信できません。
必ず周波数一覧表を見て設定してください。

受信周波数表→

周波数 (MHz)	グループ／チャンネル番号			
	グループ 1	グループ 2	グループ 3	グループ 4
322.025			C31	
322.050	C11			
322.075		C21		
322.100	C12			
322.125		C22		
322.150			C32	
322.250	C13			
322.275		C23		
322.300				C41
322.325			C33	
322.350	C14			
322.375		C24		
322.400			C34	

■チャンネル呼称について

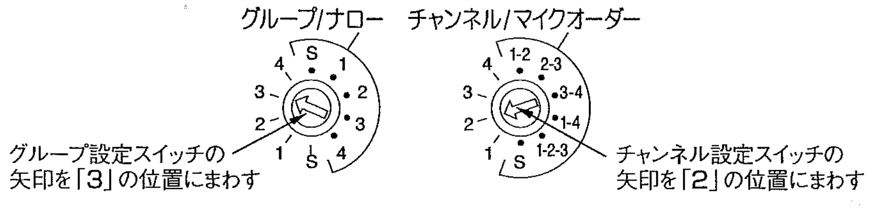
図7　　例

C 1 3
ⓐ ⓑ ⓒ

ⓐ……300MHz帯を表わす
ⓑ……グループ(GROUP)番号を表わす
ⓒ……グループ内のチャンネル(CH)番号を表わす

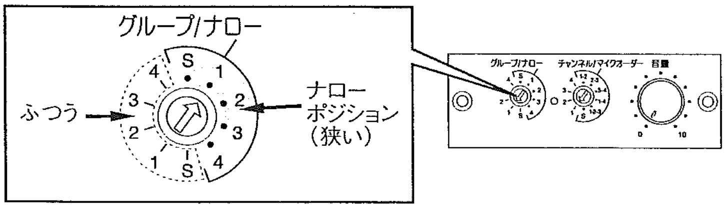
■グループ／チャンネル番号の設定例

図8
使用するワイヤレスマイクのグループ／チャンネル番号が「C32」の場合



ナローポジションについて

◆グループ設定スイッチを「ナロー」側でグループ番号を設定する場合。



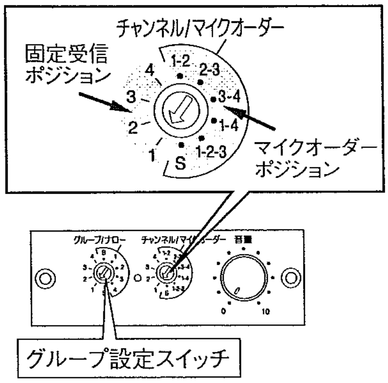
グループ設定スイッチ

・本機を使用中に、近隣で使用するワイヤレスマイクが混信するとき、または混信の恐れがあるときに設定してください。受信感度を抑え、混信を防ぐことができます。

マイクオーダーについて

●本機は1本のマイクに対して専用のチャンネルを固定して受信する設定と、任意の複数チャンネルを選択して受信する「マイクオーダー」の設定が可能です。

図 9　チャンネル設定スイッチ



◆マイクオーダーのチャンネル組合せ表

	グループ設定スイッチ / チャンネル設定スイッチ	1	2	3
マイクオーダーポジション	1-2	C11 C12	C21 C22	C31 C32
	2-3	C12 C13	C22 C23	C32 C33
	3-4	C13 C14	C23 C24	C33 C34
	1-4	C11 C14	C21 C24	C31 C34
	1-2-3	C11 C12 C13	C21 C22 C23	C31 C32 C33
	S	C11 C12 C13 C14	C21 C22 C23 C24	C31 C32 C33 C34

◆「マイクオーダーポジション」とは？

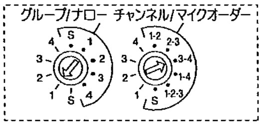
・チャンネル設定スイッチをマイクオーダーポジションに設定しますと、グループ内の複数(2〜4)チャンネルのワイヤレスマイクを受信することができます。（図９参照）

・最大4チャンネルの受信が可能ですが、最初に使用(電源スイッチ「ON」)したワイヤレスマイクのチャンネルを優先し、受信します。（図10参照）

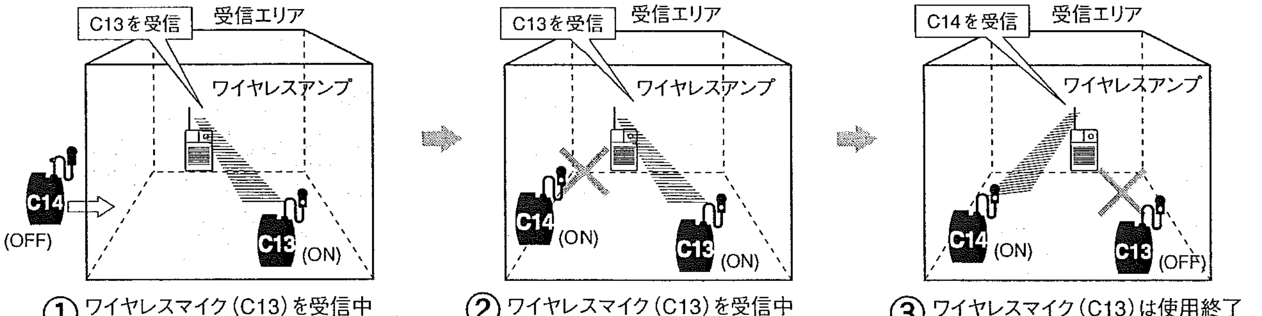
・受信中マイクの使用が終わり（電源スイッチ「OFF」）次第、設定されたチャンネルのマイクが受信可能になります。（図10参照）

・受信可能なチャンネルの組み合わせは上記のマイクオーダーのチャンネル組合せ表をご覧ください。またグループの設定は「1、2、3」のいずれかに設定してください。「4/S」には設定しないでください。

図10　マイクオーダー運用例



・グループスイッチの設定………1
　（または2, 3 のいずれか）
・チャンネルスイッチの設定……3-4
　（または1-2,2-3,1-4,Sのいずれか）



①ワイヤレスマイク（C13）を受信中

②ワイヤレスマイク（C13）を受信中
ワイヤレスマイク（C14）は使用不可

③ワイヤレスマイク（C13）は使用終了
ワイヤレスマイク（C14）は使用可能

ご注意..　●別売ワイヤレスチューナユニット組込時にマイクオーダーポジションでチャンネルを設定する場合は、両チューナのチャンネル番号が互いに重複しないようにご注意してください。

・チャンネル番号が互いに重複する組合わせ例：「1/1-2」「2/2-3」「1-2/2-3」「2-3/3-4」など

・正しいチャンネル番号組合わせ例：「1/2-3」「2/1-4」「3/1-2」「1-2/3-4」「2-3/1-4」など（必ずチャンネル番号が互いに重複しない組合わせでご使用ください。）

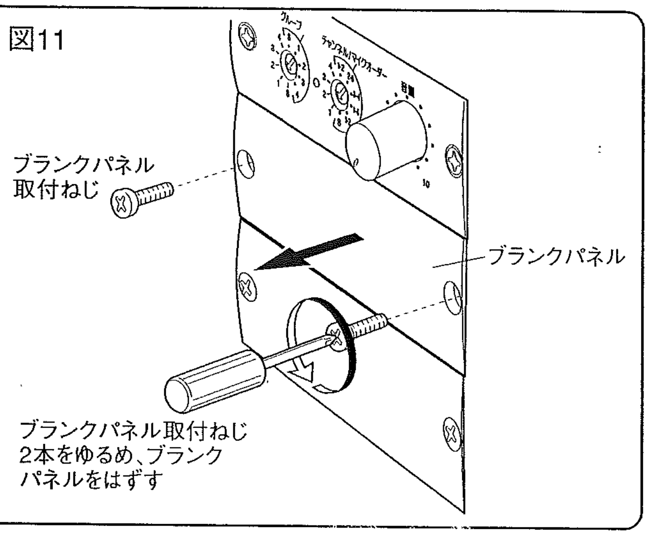
別売ユニットの取付方法

●本機は別売のワイヤレスチューナユニットSU-3000A、または入力ユニットEU-300を合計2台組み込むことができます。取付は販売店または顧客サービスセンターにご相談ください。

1.ブランクパネルをはずす

本機のブランクパネルをはずし、ブランクパネルの裏側には4Pコネクタと同軸コネクタ（A）が差し込まれていますので、それらのコネクタをブランクパネルからはずしてください。（図11参照）

図11

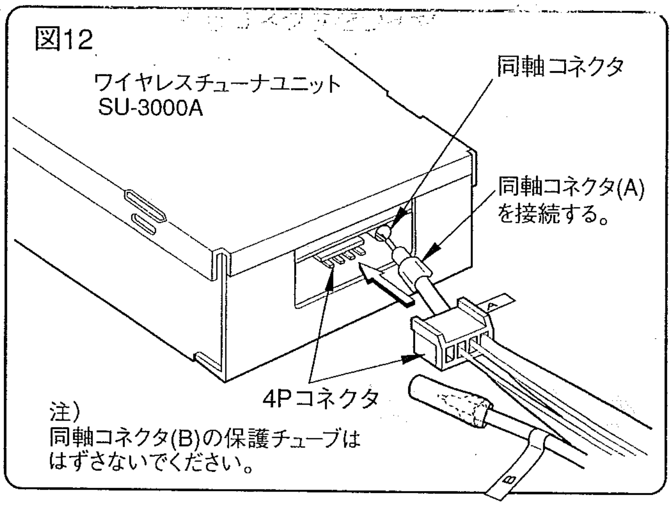


⚠警告 **ご使用中は、感電の恐れがありますので、取付作業をおこなわないでください。作業時は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。**

2.各コネクタをワイヤレスチューナユニットに接続する

はずした4Pコネクタと同軸コネクタ（A）をワイヤレスチューナユニット後面にある各コネクタにしっかりと接続してください。（図12参照）

図12



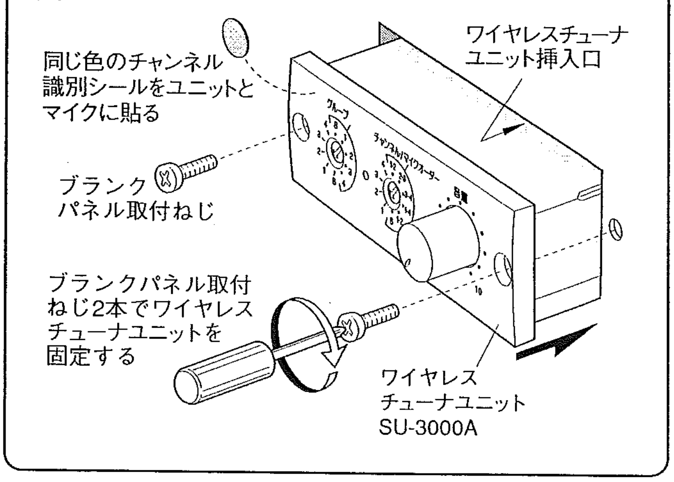
入力ユニットEU-300を取り付けの場合

説明図はSU-3000Aですが、EU-300を取り付けの場合も同様に取り付けてください。
同軸コネクタはEU-300の「同軸コネクタA」または「同軸コネクタB」のいずれかに接続してください。
取付ユニットの取扱説明書も合わせてご覧ください。

3.ワイヤレスチューナユニットを組み込む

ワイヤレスチューナユニットを本機のワイヤレスチューナユニット挿入口に挿入し、ブランクパネルを取り付けてあった2本のねじで固定してください。（図13参照）

図13



付属のチャンネル識別シールについて

●設定したチャンネルをわかり易くするために

複数チャンネルのワイヤレスマイクを容易に識別するために、同じチャンネルのワイヤレスマイクとチューナユニットに、それぞれ同じ色のチャンネル識別シール（付属）を適当な位置に貼り付けてください。

ご注意.. ・ブランクパネルから4Pコネクタをはずす際には、必ずパネル側のロックのツメをはずしてから取りはずしてください。またチューナユニット挿入時には、接続コードをはさみ込まないようにご注意ください。

操作のしかた

ワイヤレスマイクの使い方

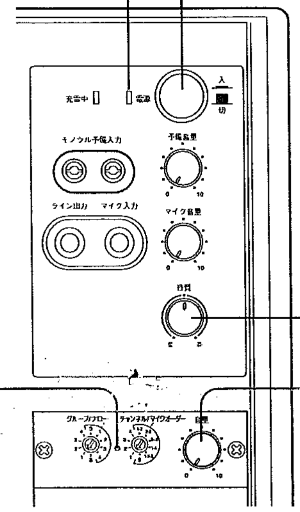
⚠注意 電源を入れる前には各音量を最小にする。突然大きな音がでて聴力障害などの原因になることがあります。

1.電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください。

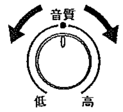
2.ワイヤレスマイクの電源スイッチを「ON」にする

アンテナ受信表示灯が緑色に点灯します。



4.音質を調節する

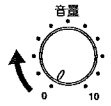
ワイヤレスマイク放送の音質を音質調節つまみで調節してください。



すべての入力に共通して音質が調節されます。

3.ワイヤレスマイクの音量を調節する

ワイヤレスマイクの音量をワイヤレスチューナ部の音量調節つまみで調節してください。

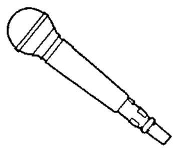


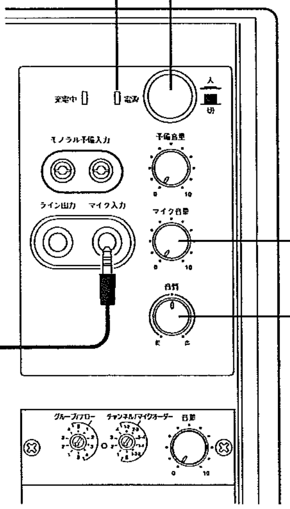
有線マイクの使い方

2.電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください。

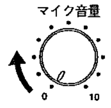
1.マイクプラグをマイク入力ジャックに接続する





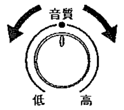
3.マイクの音量を調節する

マイクの音量をマイク音量調節つまみで調節してください。



4.音質を調節する

マイク放送の音質を音質調節つまみで調節してください。



すべての入力に共通して音質が調節されます。

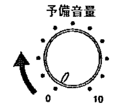
予備入力に接続されたCDプレーヤなどの放送をするとき

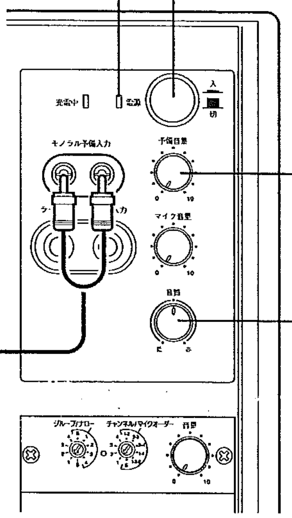
2.電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください。

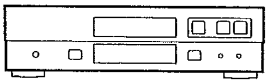
3.音量を調節する

音量を予備音量調節つまみで調節してください。



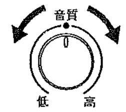


1.CDプレーヤなどの接続プラグを予備入力ピンジャックに接続する



4.音質を調節する

CDプレーヤの演奏などの音質を音質調節つまみで調節してください。



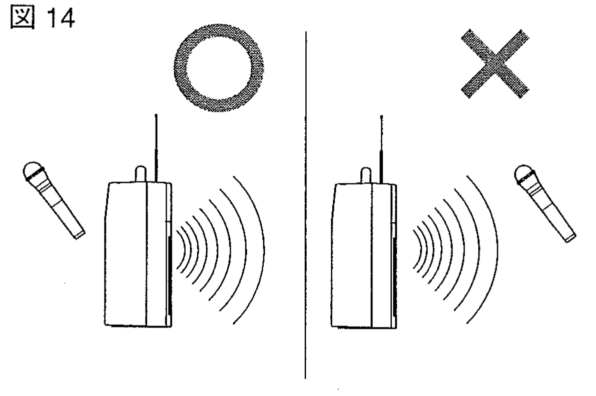
すべての入力に共通して音質が調節されます。

ご注意.. ○電源コードやその他の接続コードが正しく接続されているか確認してください。
○各音量調節つまみは反時計回り最小の位置に合わせておいてください。

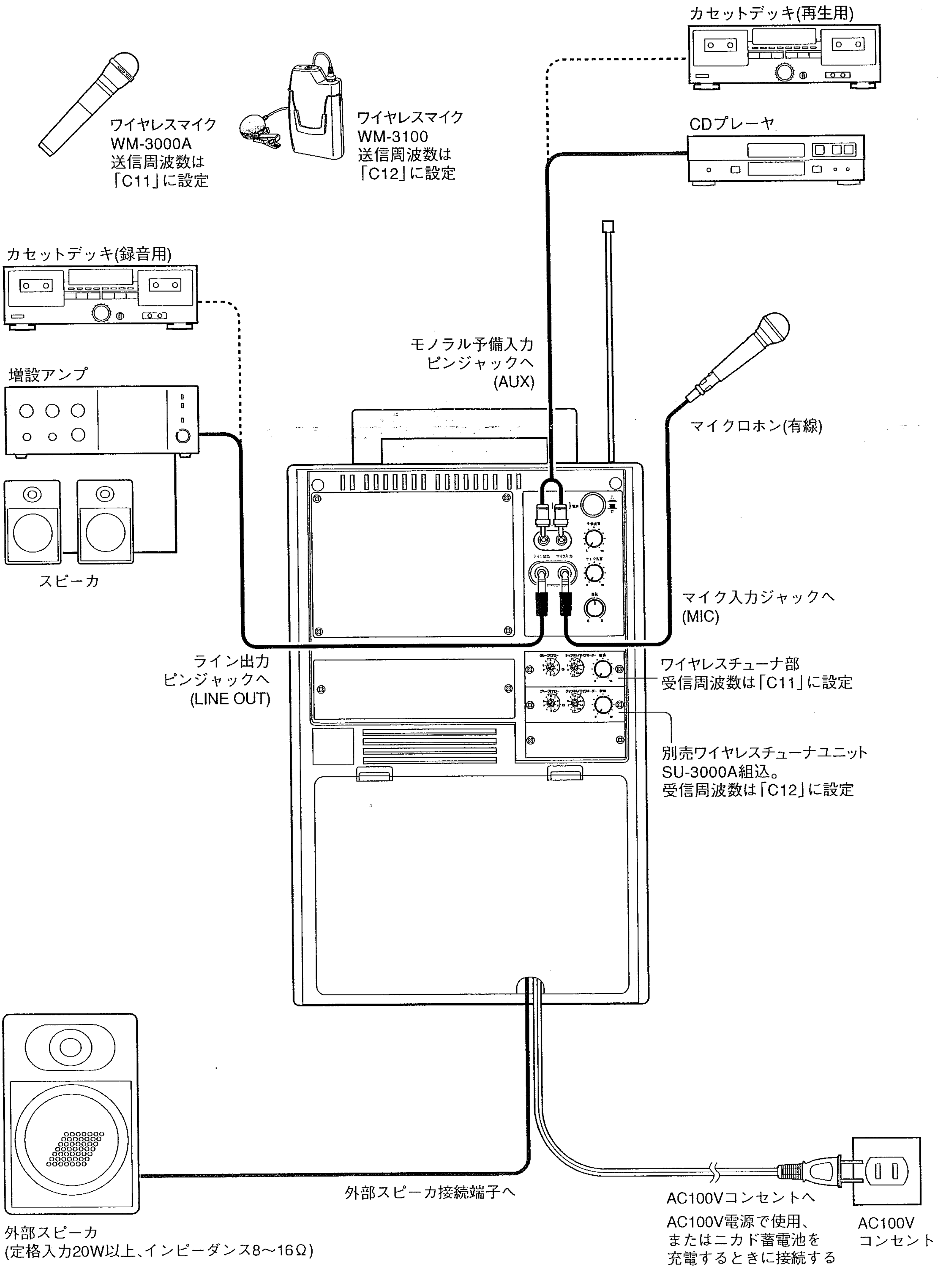
ハウリングとデッドポイントについて

- ワイヤレスマイクや有線マイクをスピーカーの真正面近くで使用したり、音量を上げすぎたりすると「キーン」というハウリングが起きます。ハウリングが起きた場合は、ただちに音量を下げるか、マイクの位置をスピーカーの方向からそらすと止まります。(図14参照)
- ワイヤレスマイクを移動しながら使用していると、突然音がでなくなる位置があります。これをデッドポイントといい、ワイヤレスマイクと本機内蔵アンテナの位置と壁、障害物などの位置関係により生ずるもので故障ではありません。本機の位置、あるいはワイヤレスマイクの位置を変えるとなおります。

図 14



接続例



カセットデッキ(再生用)
ワイヤレスマイク
WM-3000A
送信周波数は
「C11」に設定
ワイヤレスマイク
WM-3100
送信周波数は
「C12」に設定
CDプレーヤ
カセットデッキ(録音用)
モノラル予備入力
ピンジャックへ
(AUX)
増設アンプ
マイクロホン(有線)
スピーカ
マイク入力ジャックへ
(MIC)
ライン出力
ピンジャックへ
(LINE OUT)
ワイヤレスチューナ部
受信周波数は「C11」に設定
別売ワイヤレスチューナユニット
SU-3000A組込。
受信周波数は「C12」に設定
外部スピーカ接続端子へ
AC100Vコンセントへ
AC100V電源で使用、
またはニカド蓄電池を
充電するときに接続する
AC100V
コンセント
外部スピーカ
(定格入力20W以上、インピーダンス8～16Ω)

点検方法

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず、故障かな?と思うことがあります。次の要領で点検してみてください。

⚠警告

- 次の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。
- **本機は絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。修理は必ず販売店などにご依頼ください。**

症状	点検項目	対策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
	乾電池は入っていますか。	確認と同時に電池の消耗も確認してください。
	電源スイッチは入っていますか。	電源スイッチを入れてください。
	各音量調節つまみが絞られていませんか。	各音量を適当な音量に調節してください。
有線マイクの音声がでてこない	マイクのトークスイッチは入っていますか	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクプラグは確実に差し込まれていますか。	確認してください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
	マイク音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
接続機器の音がおかしい。または小さい。	接続機器のインピーダンスは合っていますか。	確認してください。
	DC電源で使用の場合、乾電池またはニカド蓄電池が消耗していませんか。	乾電池の場合は全部新しい電池に取り換え、ニカド電池の場合は充電をおこなってください。
	接続機器及び本機の予備音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
内蔵スピーカの音がでない	内蔵スピーカ切換スイッチが「OFF」位置になっていませんか。	確認してください。
外部スピーカの音がでない	正しく接続されていますか。	確認してください。

ワイヤレスチューナユニット部

症状	点検項目	対策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
ワイヤレスマイクの音声がでてこない	マイクのトークスイッチは入っていますか	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクの電池が入っていますか。	確認と同時に電池の消耗も確認してください。
	マイクとワイヤレスチューナ(ユニット)のグループ/チャンネル番号は同じですか。	グループ/チャンネル番号を確認してください。
	デッドポイントの位置ではありませんか。	確認してください。
	ワイヤレスチューナ(ユニット)の音量調節つまみが絞られていませんか。	適当な音量に調節してください。

付属の防塵カバーについて

●付属の防塵カバーは本機を埃や傷から保護するため、保管時または移動時などにご利用ください。

防塵カバーの取り付けかた

○防塵カバーを取り付けるときは、必ず接続機器のプラグをはずし、アンテナを最短に押し込んでください。(カセットデッキユニットを組み込みの場合はカセットホルダを閉める。)

○防塵カバーは前後関係なく本機に取り付けてください。
(図15参照)

移動するときは

○防塵カバーを取り付けた状態で移動するときは本機のハンドルを起こしカバー上部の切れ込みより出してください。 (図16参照)

○移動が終わり、保管する場合はハンドルを倒しカバー内部に収納してください。

図15

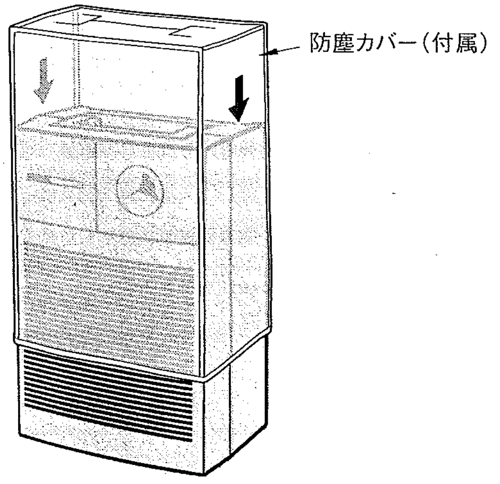
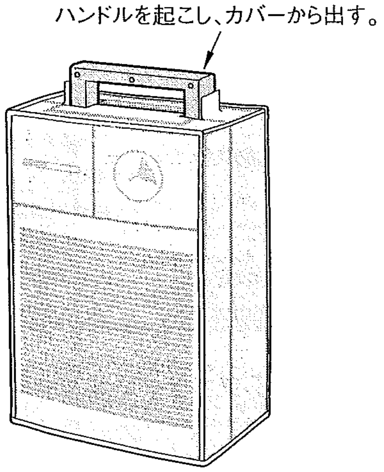


図16



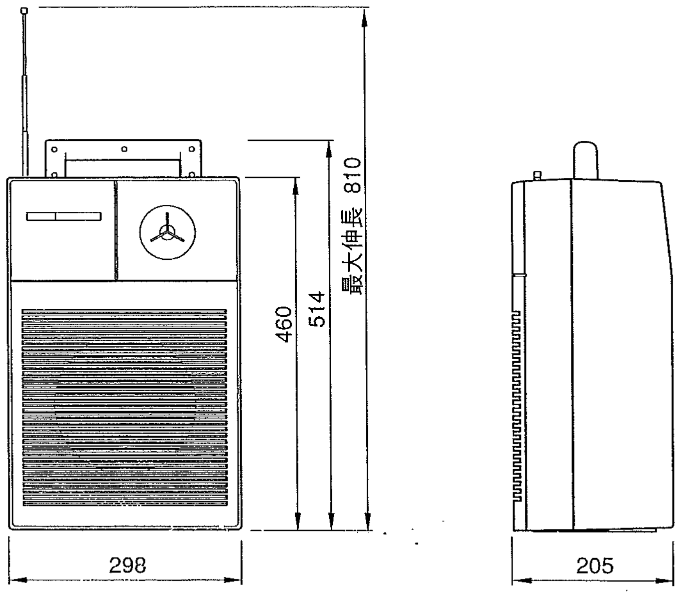
⚠警告

■防塵カバーを取り付けたまま本機を使用しない。通風孔がふさがり内部に熱がこもり火災の原因となります。

■本機に水滴が付いたまま防塵カバーを付けない。火災や感電の原因になることがあります。特に保管される時はご注意ください。よく乾燥させてからカバーを取り付けてください。

定格

品番	WB-101
使用電源	AC100V 50/60Hz、R20P(単一形)×8、専用ニカド蓄電池
定格消費電力	56W (電気用品安全法による測定方法に基づく)
消費電流	AC1.2A(20W出力時) DC2.8A(8W出力時)
定格出力	AC時：20W, DC時：8W
ひずみ率	5%(1kHz 定格出力時)
周波数特性	70Hz～12kHz (偏差±3dB), カセット125Hz～10kHz (偏差±3dB)
音質調節	4kHzに於いて＋5dB／－10dB (1kHz基準)　調節器付
入力感度及びインピーダンス	マイク：約－56dBV　600Ω　不平衡　音量調節器付 予　備：約－22dBV 10kΩ　不平衡　音量調節器付 チューナ部入力：約－26dBV　10kΩ　不平衡
信号対雑音比	70dB以上(カセット部は除く)
外部接続スピーカ	8Ω～16Ω　許容入力　20W以上
ライン出力	0dBV　1kΩ　不平衡
アンテナ方式	ロッドアンテナ×1
動作表示	電源：発光ダイオード(緑)　減電圧時点滅 充電：発光ダイオード(赤)
●チューナ部	
受信周波数	322.025MHz～322.150MHz、322.250MHz～322.400MHz（25kHz間隔13波）
出荷時設定受信周波数(グループ/チャンネル番号)	322.050MHz(C11)
受信方式	PLL制御スーパーヘテロダイン方式
受信感度	20dBμV
受信表示	2色発光ダイオード　待機時(赤)、受信時(緑)、設定外時(赤/点滅)
使用温度範囲	0℃～＋40℃
外装	ケース(ABS樹脂)：マンセルN7 近似色　ライトグレー
寸法	幅298mm　奥行205mm　高さ460mm（アンテナ最大伸張時810mm）
質量	7.3kg(乾電池、蓄電池を除く)
付属品	取扱説明書(保証書付)1、電池ケース2、マイク固定パッド2、設定用ドライバ1、防塵カバー1、チャンネル識別シール1
適合品	ニカド蓄電池（WBT-2000）、ワイヤレスチューナユニット(SU-3000A)、入力ユニット(EU-300) カセットデッキユニット(MUC-100)、CDプレーヤユニット(CDU-100)

外観寸法図

(単位mm)